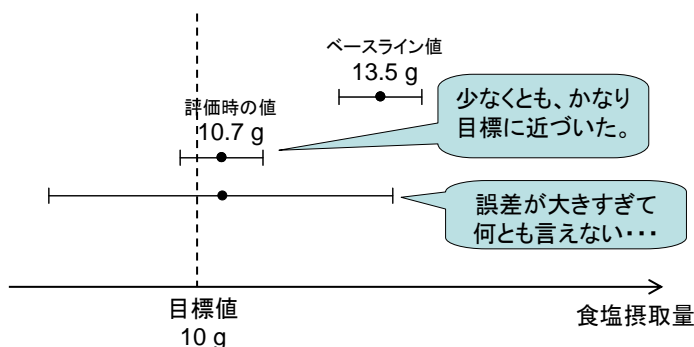


指標の達成状況の評価に関する統計処理の考え方（案） 2011. 5. 26 横山徹爾

(1) 目標値と評価年度の値との比較

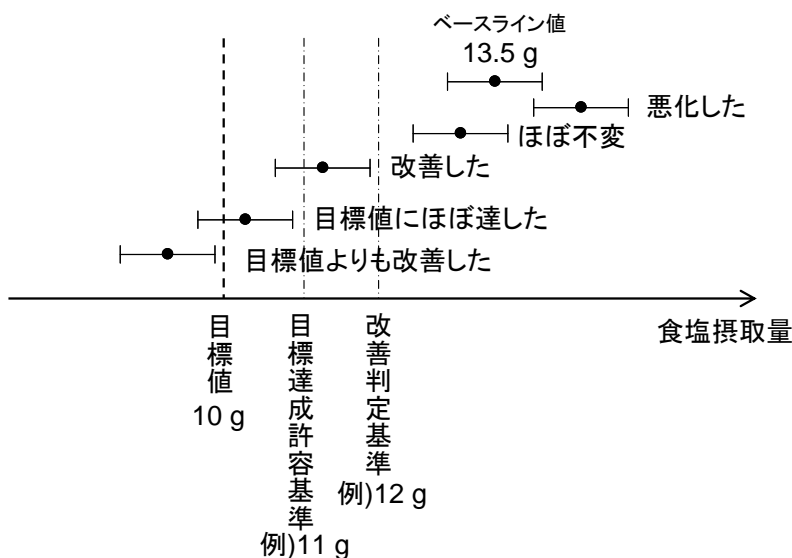
例) 食塩摂取量 成人 10 g/日未満

同じ10.7 gでも、標本誤差の大きさ |——| によって解釈は全然違う。



<評価区分（案）>

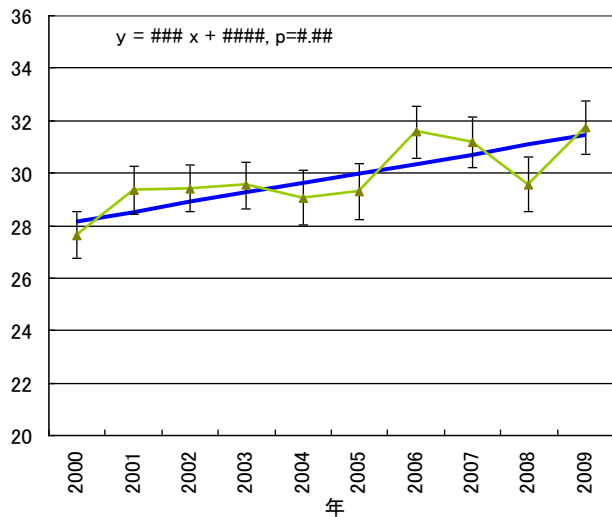
- ・ 悪化した・・・ベースラインに比べて有意（片側 5%）に悪化。
- ・ ほぼ不変・・・悪化でも改善でもない。
- ・ 改善した・・・ベースラインに比べて有意（片側 5%）に改善し、かつ「改善判定基準」よりも 90%信頼区間下限が改善位置にある。（単に統計学的に有意に改善したというだけでなく、予防医学的に意味のある改善幅であるという条件を付加）
- ・ 目標値にほぼ達した・・・「目標達成許容基準」よりも 90%信頼区間下限が改善方向にある。
- ・ 目標値よりも改善した・・・「目標値」よりも 90%信頼区間下限が改善方向にある。



- ・ 解釈の補助とするために、性・年齢階級別、および年齢調整値についても同様に分析する。

(2) 経年的な推移の評価

- ・ 解釈の補助とするために、2000年以降を図示し、トレンド検定する。
- ・ 年齢調整あり／なしの両方を作成。



(3) 健康日本21開始前後での変化の評価

- ・ 解釈の補助とするために、2000年以前も含めて、2000年を屈曲点とする折れ線回帰を行い、傾きの変化を検定する。
- ・ 年齢調整あり／なしの両方を作成。

